

11月 ようちえんだより

幼保連携型認定こども園

西神戸YMCA幼稚園

木々の葉が色づき秋の気配を感じる季節となりました。保護者の皆様には、お変わりなくお過ごしのことと思います。

子どもたちは運動会を終えた今も毎日ダンス、玉入れ、かけっこ、リレー、パラパルーンで学年を超えて遊んでいます。身体を動かして楽しく遊んだ経験と自信が、さらにこの気候の良さで益々、躍動的になっている様子です。

そんな子どもたちが過ごす幼稚園生活では3歳児、4歳児、5歳児が、生きる為に必要なあらゆることを習得する場所、時期であることを目の当たりにし、実感しています。

人間関係、言語、行動、微細運動、粗大運動。全身と全ての感覚を動かして精一杯、日々、獲得しながら過ごしている子どもたちです。

3歳児は言語の獲得が少ないながら、自分の思いや感情を知っている言葉で何とか表そうとしています。「好き」「美味しい」「楽しい」「面白い」。不快な感情を表す時は「お友だち、イヤ」「嫌い」「幼稚園、イヤ」「嫌い」「ママ、イヤ」「嫌い」「しんどい」など。しかし最近、トラブルが起こった時に「どうしたの?」と聞くと「忍者になって“箱を押す術”をしていたら、お友だちが向こうから押してきたから“やめて”って押したら泣いちゃった」と話してくれる姿がありました。泣いていた子どもは押されて泣いたのですが、押した子どもにも言い分があり、しっかりと話してくれました。

個人差はありますが、状況をよく理解して話してくれることで、お互いの話をより丁寧に聞いてお互いにとって、より良い手立て、解決法を探ることが出来ます。私たちが多くの適切な言葉をかけることによって、子どもは言語を獲得します。またゆっくり時間をかけて話し合うことで子どもの言葉を引き出し、必要な言葉が適切に使われることで意思疎通ができる経験を大切にしています。

4歳児はお友だちとの関係がさらに深くなり、好きな遊びを好きなお友だちと遊びこむ姿があります。お友だちのことを気遣い、お休みのお友だちを思いやる姿もあります。しかしその反面、関係性が密になることでトラブルも多くあります。喧嘩がそのひとつです。喧嘩はお互いの気持ちを発言したり、行動したりすることで生じますが、自我の芽生えと意見の主張。「成長の過程」では大切な事でもあります。保育者が仲介しお互いの思いを聞き取り、こんな時はどうしたら良いのか?良かったのか?それぞれのケースで話し合い、必要なことはクラスでも話し合うようにしています。また望ましくない言葉を意味もわからず使うこともあり、お友だちを傷つけることもあり、まだまだ未発達な部分も多くあります。その都度、その言葉の持つ意味など考えたり話し合ったりしています。

5歳児は、言語を多く獲得し会話が成立します。

実際の経験や行動についても「昨日、〇〇に行った」「××で〇〇ちゃんに会った」など、時間や内容もほぼ一致します。但し、お友だち同士では言葉が足りなかったり理解に差があり、誤解や勘違いがあり、トラブルになることもあります。また肝心の自分の感情については、必要な言葉を持っていても周りへの配慮や関係性などを考えて言えなかったり、敢えて言わないことも多くあります。それだけ自分を取り巻く周りが見えて来て「社会の一員」であることを知る時期なのだろうと思います。子どもたちは様々な感情や思いを持ちながら、今この時を一生懸命に生きています。口に出さなくても、安心できるお父さん、お母さんに甘えたり抱きしめられたりゆっくり過ごすことで安心し、また明日からの社会生活への原動力になると思います。

保護者の皆様にとっての1日は、育児、家事、仕事、介護他目まぐるしく過ぎておられると思います。お忙しいとは思いますが、子どもたちの言葉に多く耳を傾け、その言葉の中にある意味や感情なども汲んであげてください。幼稚園でがんばっている分、お家でもスキンシップをいっぱいってあげてください。早いもので今年も後2ヶ月となりました。時の過ぎゆくのは早いものです。

「時短」「AI」の時代ですが、子育てには多くの時間と人の手、愛情、温もりが必要です。

「時は金なり」と言いますが、どなたにとっても1分1秒がかけがえのない、より豊かな時間となりますようにお祈りします。全てのことに感謝して11月は「ありがとう」を月主題として歩んでまいります。

【年主題】

『さあ、漕ぎ出そう 奏でよう』

【年主題聖句】

「わたしは道であり、真理であり、命である。」（ヨハネによる福音書 14 章 6 節）

聖句 「成長させてくださったのは神です」（コリント信徒への手紙Ⅰ 3 章 6 節）